Ⅲ　今後のあり方について

今後の区民評価委員会の運営や行政評価システムの運用に当たっては、以下の委員会意見を参考にして改革・改善を期待する。

1. 次年度の委員会運営等への意見・要望

(1) 委員会運営方法について

○開催は、平日の午後と言う事もあり、傍聴者が 1 名で区民の関心が低かったのが気になった。今後は夜間や土日の開催も検討する必要があるのではないか。

○全体に時間が少なく、質問や意見について、委員個人の質問や意見披露に止まり、委員相互の議論は、あまり出来なかった。その点では、1 事業 30 分位の質問の時間が欲しかった。

○流れやなすべきことが不明確だったので、事前説明会があり非常に助かった。
開始時間はできれば午前中に始まり、13 時頃に終わると子供がいる主婦の方々も参加しやすいのではないか。

○開催曜日は極力分散し、開催日の間隔は余り空くと過去の内容を失念する可能性が有るため、今回と同様に開催日の間隔は 2 週間程度が好ましい。

○日程は、短期で、各回の間隔が短かったが、その分、議論への意識が途切れずに各回を迎えることができたので、かえって良かった。

○現状では、良かったと思うが、本当は常設的な委員会であるべきではないであろうか。少なくとも評価結果が次年度の事業運営にどう生かされるのかを確認するためにも、複数年の委員会設置が望ましい。

○2 週間単位での委員会開催頻度や、1 評価事業あたり 25 分の審議時間は、時間的に少し足りないような気もしたが、終えてみると、限られた時間の中で積極的に議論が展開し、全体的には良かった。

○所管課からの事業説明については、資料の内容をそのまま読み上げるのではなく、事業実施による効果や成果をもっとしっかり説明して欲しい。また、その際には、計画や予算も踏まえて、なぜそうなったのかの要因を分析した説明であることが望ましい。

(2) 評価事業の選定方法について

○事業の選定は、事務局を中心に行われたが、どれも内容的には、難しい判断が求められるものばかりであった。しかし、議論のポイントについては、比較的分かりやすいものであった。それらの点から、適切な選定であったのではないか。

○類似事業がある場合は、その類似事業との兼ね合い等から判断が難しい。しかしながら、事業は数えきれない程あるので選定基準に沿って選定する方法は致し方ないと感じた。

○補助金事業を評価対象とする場合、補助金額の僅少な事業、補助対象者が甚だ少ない事業、廃止が当然と思われる事業の評価は外すべきではないかと思う。一番取り上げるべき事業は、廃止の場合、反対する人達が多く出てくる可能性のある事業と長期間継続している補助事業であり、この場合、前提として事前フィールド調査が必要になる。

○評価対象事業は、一定のルールのもとに選定されわかりやすかったが、その他の補助金事業について、一覧表等や何らかの説明があると、補助金事業全体の内訳がわかり、今回選定された事業の位置づけも見えるのでなお良かった。

○評価対象事業が、地域から見てどのような体系かが見えづらく、統合的な体系図を示して欲しかった。その中に国や都からの補助金が交付されている事業があり、矛盾や非効率性が存在するのであれば、その指摘を行うことも可能である。特に防災関係は、コミュニティレベルでどう統合的に動けるかが大切であり、その必要性を感じた。

○選定基準をあらかじめ設定し、その基準に従って評価対象事業が選定されていたので、プロセスが明瞭で、選定基準も妥当なものと感じた。

○事務事業の内部評価結果で、例えば、複数年連続で「見直しの上縮小・統合」や「休止/廃止」となっているにもかかわらず、見直されていない事業について区民行政評価を実施するといったことも考えられる。

(3) 事業概要資料や添付資料等について

○事業概要資料や添付資料が付されたが、内容がアウト・カムではなく、アウト・プットレベルがほとんどであり、記載内容の修正・充実は、今後の課題と考える。事務事業評価や政策評価等様々な評価活動を継続していく事によって、職員側の意識も変わって来るし、作成する資料の質も上がるものと期待する。

○各助成金の交付要綱は同じものが散見されたため、ポイントのみ記載してあとは集約すべきである。

○事前質問については、委員会当日に回答が配布されるため、内容を十分に精査できず、担当課と対面した折に見過ごしてしまうことが多かった。できれば事前質問に対する回答の一覧表は、事前に配布していただけるとありがたい。

○各部署が、可能な範囲で資料を揃え説明してくれたのは良かった。一方、評価視点や委員からの事前質問に対応しない・整合しない回答もあり、評価に望む姿勢としては今後の課題である。担当部局があまり実態を把握していない場合（委員質問に明確には答えられない場合）、補助事業の効果を検討する材料にそもそも乏しく、実態がよくわからないまま議論せざるをえないことがあった。

○行政の文書に慣れてない人は、短時間に資料を読みこなすことが大変ではなかったかと思える。もっとビジュアル化したものが必要であり、パワーポイントなどを使用して墨田区の行政リーダーとしてのビジョン、見識を語るなどもっと前向きの説明があると良い。そうすれば、委員側も元気がでるのはないか。

○事業概要資料は、様式が統一されており、見やすかった。今回の評価対象は“事業”であったが、上位の施策に対する事業の位置づけや貢献度といった観点からの説明も加えられていると、さらに理解が促進したのではないかと思う。実績・成果・効果指標については、所管課の分析（自己評価）による説明が加えられていると、その実績等のさらなる理解促進につながる。

○区に提出する補助金の実績報告書の様式が複数あるように見受けられた。また、各補助金によって記載内容や領収書確認の実施状況に差が生じていた。

(4) その他

○評価対象事業の中には、30 年以上も継続した事業や啓蒙的な事業もあり、今日的に自治体が果たすべき役割を超えたものも散見された。行政の無謬性・公正性の観点から、事務事業及びその手法としての補助金について、常に時代に合うように費用対効果を意識し、職員が自ら検証し、修正を加えられるように努めていただきたい。

○全体を通して事業説明の折りに、各部署間の連携が殆ど無い様な印象を受けた。また、事業の実施においては、他区との均衡を図ることも必要であるが、独自性のあるより活発な行政運営を期待したい。さらに、区民の自主活動を支援する為には、撤退すべき補助事業は極力廃止すべきである。

○委員構成は適切でよかったと思うが、属性のみに着目した場合、中高年層の女性が一人増えるとなお良かった。地域自治活動や教育・福祉活動、芸術・芸能活動など多岐にわたって、中高年層の女性の存在は大きいと思う。

○補助金事業単独で評価する場合と、同種の政策目標を達成する類似事業を比較しながら評価する場合とでは、結果が異なったと思う。単独評価と複数比較評価の両方ができると、なお密度の濃い評価審議ができたと思う。

○評価対象事業だけではなく、付帯意見として関連する事業にもコメントする必要があるのではないかと思う。何故なら、例えば、防犯灯、(防犯カメラ)、商店街路灯は、駅から自宅まで帰る時に連担したものと思えるからである。

2．各委員の感想　～委員会に参加して～

鏡　諭

墨田区の伝統の力とそれを支えてきた、区民の意識の高さを感じた。地域のコミュニティ機能は、自治会・町内会の地縁組織によって、維持されてきた。それを支える住民の力と支えられる文化としての伝統の厚みが、墨田区にまだまだ残っていることを改めて認識した。それだけに新たな視点で、補助事業を見直す事の難しさもあった。地域の文化、経済、スポーツ、防災等の活動をしている団体の必要性と公的資金による活動の支援は、常に変化があり見直しが必要である。今回の検証は、今後の補助金支出の一つの参考となる事を期待している。

今日、地域活動を担っている団体には、NPO をはじめボランティア団体、企業等、地域活動は多様化している。そうした広範な団体も視野に入れた新たなルール作りが必要と感じた。

河上　牧子

委員会では、各部署が、できる限り資料を揃え説明してくれたのはよかった。既存の資料や報告等の情報集約が大変だっただろうと思う。

今後は、評価精度を一層高めるため、情報整理や報告方法の見直し、政策評価のためのデータづくりを意識的に行って欲しい。併せて、評価結果反映の仕組みづくりも検討して欲しい。さらに、補助事業を受ける側にも、適切な事業報告を望みたい。

全補助事業 200 以上のうち、今年度は 15 事業の評価であった。事業評価を継続することは、補助金支出を現代社会に適うものとして効率化することにつながる。ぜひ他補助事業についても横断的見直しと評価継続を期待する。

高橋　晶子

限られた時間の中での審議でしたが、委員のみなさんからの意見も踏まえながら自らの考えも整理できましたし、多様な視点を踏まえて審議できたのではないかと思います。

委員会での討議内容や意見については、評価対象となった事業だけではなく、他の事務事業の担当者にも広く理解いただいて今後の改善・見直しに役立てていただき、これが区全体の改善・改革につながっていくことを願っています。

齋藤　敬三

今回ご指導頂いた先生方並びに事務局の方々に、一墨田区民として厚く御礼申し上げます。

さて今回強く感じたのは、補助金事業の一番の目的は自主的区民活動をいかに活性化させることで、長く続けることは要件でなく、補助事業を評価し、問題事業の改変または廃止する事が重要だという事である。その一手段として、効果測定が非常に大切な事と思った。

しかしかかる効果測定は、ほとんどの事業で行われておらず、今後区民行政評価委員会を行う場合、最大の問題点と言わざるをえない。

効果測定としての調査(フィールドでのサンプリングなど)を統計調査活動業務、権利擁護センター業務のように区民を巻き込んで、区民と共に効果的に行う事が重要な一手法と思った。

萩原　紀子

今回初めて区民行政評価委員会に参加し、他の委員の方々の意見や区の方々の意見を伺い、とても勉強になりました。行政は今まで身近ではあるもののどこか遠く不明瞭な存在でありましたが、今回議論を重ねることで区の事業やその事業に携わる方々の意見を伺い、実態を感じることができました。そして、今回参加させて頂き、行政も時代と共によりよい形に変化していく必要があると改めて感じました。一区民として率直な意見を述べさせて頂く機会を頂き、ありがとうございました。

福井　憲二

区の行政評価ということで、資料の整理や読み込みなどかなりハードな委員会との印象を受けておりましたが、鏡会長のご指導をはじめ企画経営室の皆様方のご協力により、無事に終了することができました。まずは、ほっとしているところです。

補助金は、区民からの要請や行政として、ぜひ取り組まなければならない施策が中心でしたが、ともすると、単体の企業や団体・個別の町内会などの利益が優先されてしまっているケースも多々ありました。

区民の税金ですので、補助金をうけるほうも補助行うほうも、税金であるという意識を常に意識し、公平、明瞭に支出されることを願っております。

牟田口　雄彦

本委員会委員を務めてみると地域の仕組み、縦糸と横糸の綻びが何もしないと大きくなっていく様子がよくわかりました。もっと墨田区が住み易く安心安全で活気ある街になるために、地域社会の変動に対応して前向きに地域改革を進めることが大切と感じました。人や予算を効果的に投入しないと地域の歪みが大きくなるばかりです。区行政では、もっと補助金の使い方に知恵を絞り工夫をしていただきたい。地域の人々のやる気を引き出す補助金の使い道をもっと模索するべき時と思いました。最後に評価委員会の仕事は考えていたより大変な作業であり、夏休みの間におまとめに奮闘していただいた行政改革担当の職員の皆様の働きに感謝しております。